

登録会員 各位

インドからの大学生・大学院生のインターンシップ受入募集のご案内

平素より格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

さて、外務省が実施する「インド次世代共創人材招へいプログラム（MIRAI-Setuプログラム）」の一環として、2026年10月7日（水）から11月4日（水）の約1か月間、インドから理系大学・大学院生38名、引率教授2名計40名が来日いたします。

滞在期間中のうち、参加者は8日間の企業インターンシップ（4日間×2社）を予定しております。

つきましては、将来的にインドに進出を予定している、インド人材に興味があり活用したいと考えている、IT・ものづくり・スタートアップなどに関する企業を募集する運びとなりました。ぜひ受け入れたい、いったん話を聞いてみたいなど、ご興味のある企業様は、以下の応募フォームより企業情報及びご希望の研修期間など必要情報を入力いただけますと幸いです。

ご回答期日：2026年7月8日（水）

多くの企業様からのご応募をお待ちしております。

募集要項

事業概要（詳細別紙）	事業名：インド次世代共創人材招へいプログラム（MIRAI-Setu） 2025年の日印年次首脳会談における合意に基づき企画された外務省の人材交流・協力施策のひとつ。インドの理系大学生・大学院生40名（うち2名は引率大学教員）を日本に招へいし、日本企業でのインターンシップや大学間交流の機会を提供する。 2025年度事業の様子： AFSホームページ
福岡地域でのインターンシップ対象者	インドからの大学生及び大学院生19名 ※下記4大学から募集予定 インド工科大学ハイデラバード校 インド工科大学マドラス校 インド工科大学グワハティ校 インド情報技術大学ジャバルプール校
インターンシップ期間	①2026年10月13日（火）～10月16日（金）の4日間 ②2026年10月19日（月）～10月22日（木）の4日間 ③2026年10月13日（火）～10月22日（木）の土日を除く8日間 いずれかの期間を選択
インターンシップ受入希望人数	1企業 2名～5名程度（人数については応相談）
その他	・各企業に、1名の通訳が同行し、就業中の通訳をいたします。 また、宿泊ホテルから同行いたしますので、通勤における送り迎え等は不要です。 ・インターン生・通訳の交通費及び昼食費は負担いたします。 ・インターンシップに必要な資材や資料等費用等が発生する場合は定める金額を上限にお支払いいたします。
申込方法（応募フォーム）	以下の応募フォームよりお申込みください。 いったん話を聞いてみたいということでも結構です。 MIRAI-Setu企業インターンシップ 応募フォーム
問い合わせ窓口（実施団体）	公益財団法人AFS日本協会 プログラム本部 メールアドレス： gr@afs.or.jp 電話番号：03-6206-1941 担当：大工原・宮下・森本



外務省事業

**インド次世代共創人材招へいプログラム
(MIRAI-Setu)**

2026年度

<実施概要>

【目次】

1. はじめに	P1
2. 実施概要	P2～3
3. 実施要項	P4
4. プログラム全体日程表	P5～6
5. 大学紹介	
インド工科大学ハイデラバード校	P7
インド工科大学マドラス校	P8
インド工科大学グワハティ校	P9
インド情報技術大学ジャバルプール校	P10
6. AFS日本協会とは	P11～14
7. お問い合わせ先	P15

【はじめに】

平素より公益財団法人AFS日本協会の留学生支援事業へ多大なるご協力を賜り誠にありがとうございます。

弊協会では、2025年度に外務省事業「インド次世代共創人材招へいプログラム[MIRAI-Setu]」を実施し、今年度で2回目となります。昨年同様、インドの大学生及び大学院生(若手研究者含む)を40名1か月間招へいします。

この事業は、日本政府が進める優秀なITをはじめとした理系人財をインドの工科系大学や大学院から優秀なインターン生として受け入れ、日本に本社がある製造業、スタートアップ、エネルギー、IT、サービスなどの企業にて、約2週間のインターンシップ研修を実施すると共に、大学や研究機関で最新の研究の現場を見学するとともに日本の学生と交流する機会を提供して、将来的な学術交流の基盤を築くことを目指しています。

昨年度は、福岡県福岡市内の企業でインターン生の受け入れ、静岡県浜松市・東京都内の企業訪問を実施。また、JAXA、九州大学、安川電機などで最先端の技術を見学することができました。研修生たちの多くは履歴書を持参して、熱烈に自分をアピールし、インターン最終日には、企業に対して新たなビジネスの試案を提示するなど積極的な研修生に、企業側からも雇いたいとの希望まで出ました。

現在、わが国ではIT人財を含めて理系人財が不足していますが、なかなか企業側にとって優秀な外国人を雇うための情報が不足しています。このプログラムを通して、まずはインドからの人財をインターンの形で受け入れることで、今後、外国人の採用を促進するきっかけ作りをしていただければと存じます。

また、プログラムではインドの研修生に日本の文化体験をしてもらい、インドとは違う異文化理解を深めることで親日意識を高め、これにより日印間の持続可能なパートナーシップの構築を目指します。

弊協会は、本事業の実施団体として、プログラムの企画・運営を行います。参加者の専門性、関心分野に沿って、対日理解を促進して、日本とインドの相互理解と友好関係を深められるよう視察先等のアレンジを行い、プログラムを実施いたします。つきましては、貴社におきまして、約2週間程度のインターンシップ研修をご検討いただければ幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

公益財団法人AFS日本協会
理事長 加藤 暁子

【実施概要①】

インド次世代共創人材招へいプログラム「MIRAI-Setu」 ～日印の未来を創造する、新たな人材交流～

外務省南西アジア課

1 背景

日本では、2030年に最大79万人のIT人材が不足すると言われるなど、人材の確保が喫緊の課題であり、諸外国の優秀な人材の獲得・活用が急務となっている。そうした中、インドでは、工学系の学生が毎年約150万人卒業すると言われ、インド人に対する世界的な人材の獲得競争が進んでいる。しかしながら、他国と比較して日本企業によるインド人材の獲得は更なる拡大の余地がある状況であり、そのために、インド人材、日本企業の双方が互いのニーズや習慣に関する理解を一層深めることが重要である。

2 プログラム目的

上記1の背景を踏まえ、「MIRAI-Setu」では、IT分野を始めとするインドの優秀な大学生・大学院生約40名を日本に招へいし、約1か月間のプログラムを実施することで、日本企業でのインターンシップや大学間交流の機会を提供する。

プログラムを通じ、インド人材及び日本企業間の相互理解を促進し、日印両国の経済・社会の発展に貢献する人材を増加させることで、日印間の頭脳循環の促進を目指す。また、日印経済関係の将来を担う人材を育成し、持続可能な日印間のパートナーシップを構築するための人的基盤を築く。

3 プログラム内容

(1) 企業訪問・インターンシップ

企業訪問では、IT、ものづくり、スタートアップなどに関する企業を訪問し、企業の経営者や社員との意見交換を通して、日本のビジネス文化への理解を促進する。また、日本の企業が抱える課題や将来の展望について学び、日本企業への理解も深める。

インターンシップでは、日本の企業で実際に仕事をするすることで、日本のビジネス文化や働き方を体験し、お互いの文化・習慣等の認知ギャップを埋めていく。さらに、実務経験を通して、専門知識やスキルを向上させ、日本企業での仕事の魅力や課題を理解し、将来的なキャリアプランを考える機会を提供する。

(2) 大学間交流

大学間交流では、各地の日本の大学を訪問し、キャンパスツアーや学術交流イベントを通じて日本の学生と交流する機会を提供する。特別講義や研究室見学を通じ、学術的なネットワークを広げ、将来的な共同プロジェクトや留学の可能性を探る。

また、日本の大学教育や研究環境に対する理解を深め、日本の教授や学生とのネットワークを構築し、将来的な学術交流の基盤を築く。前回の参加者の中に、日本に留学してみたいと述べていた者が多くいたことが確認されている。

昨年の福岡チームの引率教員の九州大訪問がきっかけとなって、インド側参加校の一つと九州大の教員が結びつき、インド側大学の博士課程の学生に対する遠隔論文指導が始まる予定。今回も有力大のある都市で実施し、同様の成果を拡大したい（例：静岡大、京都大、大阪大、九州大を検討中）。

【実施概要②】

4 対象者・対象人数

インドの理系大学生及び大学院生
学生38名・引率教員2名 計40名(予定)
※4大学から募集予定

- ・インド工科大学ハイデラバード校
- ・インド工科大学マドラス校
- ・インド工科大学グワハティ校
- ・インド情報技術大学ジャバルプル校

5 企業・大学側の受入れメリット

(1)企業側

- ア. 深刻化する人材難に直面する日本の企業にとって、優秀なインド人材との出会いの場を提供することで、将来的な人材獲得のパイプラインを構築することができる。
- イ. インド人材との交流を通して、インド人材の能力やポテンシャルを直接見極める機会となり、異なる文化や視点を持つインド人材の登用に対する理解を深め、多様な人材を活用する組織体制の構築を促進する。
- ウ. 参加者とのネットワークを構築することで、将来的なインド企業・大学等との連携の可能性を見出し、参加者は帰国後も日本企業との繋がりを維持し、将来的な日印間のビジネス交流の架け橋となることが期待される。

(2)大学側

- ア. 国際的な研究ネットワークを構築し、大学の魅力を発信する機会となり、インドの学生及び大学との連携を強化することで、将来的な共同研究や学生交換プログラムの実施など、国際的な学術交流の促進が期待される。
- イ. プログラムを通して、日本の大学教育や研究環境をインドの学生にアピールすることで、日本の大学への留学を促進し、インドからの留学生の獲得が見込まれる。
- ウ. 日本の学生とインド人学生の交流を通じて、異文化理解を深め、学生の国際的なコミュニケーション能力や問題解決能力を向上させ、将来、国際的な舞台で活躍できる人材を育成することができる。
- エ. 研究や教育における国際的なネットワークを構築し、国際的な競争力を強化することができる。

【実施要項】

招へい者	インドからの大学生及び大学院生(若手研究者含む)40名 (うち、大学教員引率2名含む) ※下記4大学から募集予定 インド工科大学ハイデラバード校 インド工科大学マドラス校 インド工科大学グワハティ校 インド情報技術大学ジャバルプール校
訪日期間	2026年10月7日(水)来日～11月4日(水)帰国
研修期間	下記3パターンのいずれかを選択 ①2026年10月13日(火)～10月16日(金)の4日間 ②2026年10月19日(月)～10月22日(木)の4日間 ③2026年10月13日(火)～10月22日(木)の土日を除く8日間
受入希望人数	1企業 2名～5名程度(人数に関しては応相談)
その他	<ul style="list-style-type: none">・各企業に、1名の通訳が同行し、就業中の通訳をいたします。 また、宿泊ホテルから同行いたしますので、通勤における送り迎え等は不要です。・インターン生(大学教員含む)・通訳の交通費及び昼食費は負担いたします。・インターンシップに必要な資材や資料等費用等が発生する場合は定める金額を上限にお支払いいたします。
今後の流れ	2026年5月～6月: インターン企業選定・確定 2026年6月～7月: 調整・打ち合わせ、招へい者の募集/選考 2026年8月下旬: インターン企業にインターン生の情報提供 2026年9月: 最終全体調整 2026年10月: インターンシップ実施 2026年11月: インターン生からの感想提出、参加企業アンケート提出

【訪日プログラム全体日程案 (6月2日現在)】10/6～23

日程		福岡チーム	関西チーム
	10/6(火)	夕刻 デリー出発	
1	10/7(水)	朝 羽田空港 到着 午前 ホテル到着・アーリーチェックイン 午後 オリエンテーション・日本語レッスン	
2	10/8(木)	午前 日本企業で活躍中のインドの方々の講義・座談会 午後 東京大学、アイセックとの交流	
3	10/9(金)	終日 日本タタ・コンサルタンシー・サービシズ ”三菱グループとの交流と日印ビジネスワークショップ”	
4	10/10(土)	午前 JAXA宇宙センター 見学ツアー 午後 高エネルギー加速器研究機構など 視察	
5	10/11(日)	終日 フリー	
6	10/12(月・祝)	午前 羽田空港 出発 午前 福岡空港 到着 午後 太宰府天満宮 視察 午後 ホテル 到着	午前 羽田空港 出発 午前 伊丹空港 到着 午後 大阪城 視察 午後 ホテル 到着
7	10/13(火)	福岡周辺 インターンシップ	大阪or京都 インターンシップ
8	10/14(水)	福岡周辺 インターンシップ	大阪or京都 インターンシップ
9	10/15(木)	福岡周辺 インターンシップ	大阪or京都 インターンシップ
10	10/16(金)	福岡周辺 インターンシップ	大阪or京都 インターンシップ
11	10/17(土)	終日 福岡旧市街 視察 文化体験(提灯作りなど)	終日 京都市内視察 文化体験(手織り体験など)
12	10/18(日)	終日 フリー	終日 フリー
13	10/19(月)	福岡周辺 インターンシップ	大阪or京都 インターンシップ
14	10/20(火)	福岡周辺 インターンシップ	大阪or京都 インターンシップ
15	10/21(水)	福岡周辺 インターンシップ	大阪or京都 インターンシップ
16	10/22(木)	福岡周辺 インターンシップ	大阪or京都 インターンシップ
17	10/23(金)	午前 九州大学 午後 在福岡インド領事館	午前 関西大学 午後 大阪大学

【訪日プログラム全体日程案 (6月2日現在)】10/24～11/4

日程		福岡チーム	関西チーム
18	10/24(土)	午前 福岡空港 出発 午前 伊丹空港 到着 午後 京都周辺視察	終日 福岡チームと合流し、京都 周辺視察
19	10/25(日)	終日 フリー	
20	10/26(月)	終日 京都大学	
21	10/27(火)	終日 京都大学	
22	10/28(水)	午前 京都大学 午後 静岡へ移動	
23	10/29(木)	午前 静岡大学 午後 企業訪問(スズキ・アルフレッドなど)	
24	10/30(金)	午前 浜松市役所 表敬訪問 午後 企業訪問 御殿場方面へ向けて出発	
25	10/31(土)	午前 世界遺産(富士山)など視察 午後 山梨県立リニア見学センター 視察 東京に向けて出発	
26	11/1(日)	終日 成果報告会 準備	
27	11/2(月)	午前 在京インド大使館 訪問 午後 成果発表会 夕刻 交流会	
28	11/3(火・祝)	終日 フリー	
29	11/4(水)	午前 羽田空港 出発 午後 デリー 到着	

インド工科大学ハイデラバード校

Indian Institute of Technology Hyderabad / IIT Hyderabad

インドの最高峰の大学・研究機関である23のIITの一つ。インド政府が2008年に11番目のIITとしてテランガナ州の首都ハイデラバードに設立した。最初のIITはインド独立後の1951年、ジャワハルラール・ネルーが創設。

工学を中心に多様な学部があり、工学、科学、リベラルアーツのすべての分野で博士号まで取得することができる。

全23校あるインド工科大学内でのランキングは8位

<日本への就職状況>

採用数上位5社：楽天・NTT-AT・アクセンチュア・スズキ・デンソー

富士通・Yokogawa・日立・ソフトバンク・日本精工・JR東日本・亀田製菓・メルカリなどの日本企業へ多くの人材を輩出。210名のIITH卒業生が日本企業に就職。85名のIITH在校生が日本企業でインターシップを経験。(2024年8月現在)

<日本国内学術協定大学> 16大学

会津大学、大阪大学、金沢大学、熊本大学、国際教養大学、埼玉大学、静岡大学、芝浦工業大学、島根大学、東京大学、東京都市大学、広島大学、北海道大学、横浜国立大学、立命館大学、早稲田大学

<日本国内学術協定研究機関> 4機関

産業技術総合研究所人工知能研究センター、物質・材料研究機構、防災科学技術研究所、理化学研究所革新知能統合研究センター



<大学ランキング>

QS世界大学ランキング(2026年)

インド国内 15位

世界 664位

Scimago Institutions Rankings(2026年)

インド国内 33位

世界 4444位

インド工科大学マドラス校

Indian Institute of Technology Madras

インドのタミル・ナードゥ州チェンナイに位置し、ギンディー国立公園の一部をキャンパスとし、1959年に西ドイツの前政府からの技術的および財政的な援助を得て、インド政府によって設立された3番目のインド工科大学である。IITマドラスは、2016年にNIRFランキングシステムが導入されて以来、教育省の国家機関ランキングフレームワークによって常にインドのトップエンジニアリング研究所としてランク付けされている。

QS-W2022で=255位、教育省(MOE)全国高等教育機関ランキングフレームワーク(NIRF)によって2021年に3回連続で1位にランク付けされた。工学と科学の分野にわたる学科と先端研究センター、100近い研究室がある。IITマドラス・リサーチ・パークは、インドで最初に設立されたりサーチ施設で、企業のイノベーションやインキュベーション活動、技術インフラを通じて新興企業の育成などに成功している。

学生や教職員の多くは、キャンパス内にあるホステルに住み、構内には病院、ショッピングセンター、ジム、銀行、寺院までが揃っている。

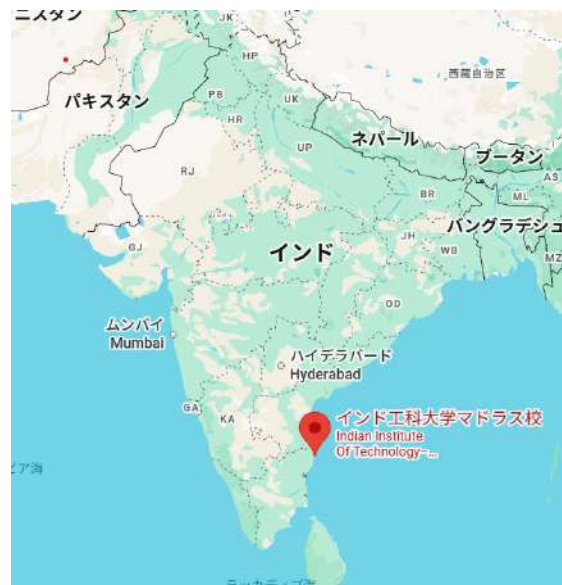


<大学間協定>

北陸先端科学技術大学院大学 横浜国立大学
長岡技術科学大学 東京工業大学 同志社大学
九州大学
パリサクレ大学 プラハ・カレル大学
ダルムシュタット工科大学 台湾清華大学
セント・アンドリュース大学
ピサ大学 ソウル国立大学など

<大学ランキング>

NIRF(National Institutional Ranking Framework)(2025年)
インド国内 1位
QS世界大学ランキング(2026年)
インド国内 3位 世界 180位
Scimago Institutions Rankings(2026)
インド国内 11位 世界 2392位



インド工科大学グワハティ校 Indian Institute of Technology Guwahati

初代首相ネルーが創設した16のインド工科大学(ITT)のうち、1994年に設立された6番目の大学。11の学科と5つの学際的な学術センターがある。

インド東北部のアッサム州に位置している。ブラフマプトラ川の北岸に位置するキャンパスは市街地から20kmほど。

インド工科大学グワハティ校(IITG)は、伝統ある「Old IITs」の一角でありながら、その中では最も新しく、伝統的な強みと先進的な技術領域への柔軟性を併せ持つ大学である。大都市圏のキャンパスとは異なり、北東インドに位置する同校は、地理的・文化的な近接性から「アクト・イースト政策(旧・ルック・イースト政策)」を推進し、日本との連携に極めて意欲的である。

インド北東部におけるスタートアップ・ハブとしての機能も強化している。キャンパス内には「Technology Incubation Center (TIC)」や「BioNest」などのインキュベーション施設に加え、卒業生らが創設したスタートアップの事業を継続するための「リサーチパーク」も整備されている。



<大学間協定>

北海道大学 東京大学 横浜国立大学
京都大学 大阪大学 九州大学 岐阜大学 香
川大学 京都工芸繊維大学 芝浦工業大学 中
部大学 ICU 神戸外語大学
ジョージ・オーガスト大学 フランス国立高等電
気通信学校(ENST) 汕頭大学など

<大学ランキング>

QS世界大学ランキング(2026年)

インド国内 7位 世界 384位

Scimago Institutions Rankings(2026年)

インド国内 32位 世界 4149位



インド情報技術大学ジャバルプール校

Indian Institute of Information & Technology, Jabalpur

インド情報技術大学ジャバルプール校(IIITDMJ)は、インドのマディヤ・プラデーシュ州ジャバルプールに位置する国立大学。この大学は、特に機械工学、電子・情報工学、コンピューター科学工学の分野で、国際競争力のある技術者を育成することを目的として設立された。具体的には、機械工学(ロボット工学、数値制御工作機械など)、電子・情報工学(マイクロエレクトロニクス)、コンピューター科学工学(データベース、ネットワークセキュリティ、画像処理、人工知能、組み込みシステムなど)の分野で、ITを用いた設計と製造に特化した教育・研究を行っている。

IIITDMジャバルプール校と日本の協力は、日本とインドの間で構想されているより広範なパートナーシップの一環。ITを活用した設計・製造に重点を置いた、他に類を見ない研究所として、日印パートナーシップの下、発展・育成されている。両国政府間の共同協定に基づき、最先端の製造技術をリードする日本は、インド情報技術大学ジャバルプール校の教育・研究プログラムの開発支援と、インフラ整備の促進に尽力することを約束している。研究所の氏名は、科学、工学、芸術の異なる分野を融合させ、相互に刺激しあう協働的な環境を築くことで、製品の開発、製造、デザインにおける知識基盤型活動とイノベーション



の育成・促進を担う卓越した人材の育成と訓練を行う多分野連携型の学術環境を創造することである。この使命を果たすため、学術研究の現在の課題と将来の展望を明確にし、世界コミュニティと知識や発見を共有し、社会に貢献する意欲と能力を有する人材を積極的に育成していく。



<大学間協定>

東京大学、東京工業大学、東北大学、芝浦工業大学、神奈川工科大学

<企業間協定>

日立、東芝、アマダ、大隈、住友金属 & GEエナジー

<大学ランキング>

Scimago Institutions Rankings(2026年) インド国内 10位 世界 2301位

【公益財団法人 AFS日本協会について①】



We Develop Active Global Citizens
自ら考え、行動するグローバル市民を育てる



公益財団法人AFS日本協会
<https://www.afs.or.jp/>
国際教育交流団体

AFSとは

- 由来** AFSは、世界大戦中に傷病兵の救護輸送に携わったアメリカのボランティア組織、American Field Service(アメリカ野戦奉仕団)の活動に端を発しています。
戦争のない平和な世界の実現をめざし、1947年以来、国際教育交流団体として活動しています。
- 性格** 特定の政治、宗教に偏ることのない、ボランティアからなる非営利団体です。
- 理念** 公正で平和な世界の実現に必要な知識・能力・理解力育成のための異文化体験の場を提供します。
高校生の交換留学事業を中心に、社会人、教師、ボランティアなど幅広い年齢層を対象とした異文化理解プログラムを企画・実施しています。
- 組織** ニューヨークの国際本部を中心に世界約60の国・地域にネットワークをもち、世界約100か国との間で年間12,000人を超える交流を行っています。

AFSの使命

- AFSの目的** AFSは国際的なボランティア団体であり、営利を目的としない民間の組織である。より公正で平和な世界の実現に必要な知識・能力・理解力を多くの人びとが身につけるため、さまざまな異文化と接する機会を提供することを目的とする。
- AFSの基本的価値観と立場** 多様性に満ちた世界において、平和と相互理解の推進のため行動する責任ある地球市民を育てようとするAFSは考える。平和は常に不正、不公正、偏狭な心によって脅かされる危ういものと認められているからである。
AFSはすべての個人、すべての国と文化に、それぞれの尊厳と価値があると確信し、その考えが広く確立されるよう努力する。そして、人種、性、言語、宗教、社会的地位の違いと無関係に、人権と基本的自由が尊重されるよう、その実践を推進する。
AFS活動は人間の尊厳、違いの尊重、調和、感受性、寛容の精神という基本的価値観に基づいて行われる。



【公益財団法人 AFS 日本協会について②】

公益財団法人 AFS 日本協会のあゆみ

- 1954 日本から第1期生をアメリカへ派遣
(横濱港から永川丸で8人の高校生が渡米)
- 1955 第1期生によるAFS日本支部の創立
- 1957 アメリカから9人の高校生を初めて日本に受け入れる
- 1963 年間受入プログラムがはじまる
- 1972 ノルウェーの高校生を受け入れ、アメリカ以外の国々との交流がはじまる
- 1980 文部省(現文部科学省)の許可を受け、財団法人エイ・エフ・エス日本協会を設立
- 1982 短期派遣プログラムがはじまる
- 1982 特定公益増進法人の認可を受ける
- 2000 セメスター受入プログラムがはじまる
- 2004 国際交流功労者文部科学省大臣表彰を受ける
AFS世界会議を日本で初めて開催
- 2005 大学生、社会人、教育者などを対象にした新規プログラムがはじまる
- 2011 公益財団法人の認定を受け、公益財団法人AFS日本協会に名称変更
- 2018 「アジア高校生架け橋プロジェクト」の実施団体になる
- 2023 「アジア高校生架け橋プロジェクト+」の実施団体になる
- 2024 70周年をむかえる



事業概要 2010年12月24日「公益財団法人」認定

名称 公益財団法人AFS日本協会
 代表者 理事長 加藤暎子
 事務所 東京都港区虎ノ門3-1B-16 虎ノ門青井ビル6階
 設立年月日 1980年4月17日(創立 1955年)
 基本財産 359,605千円(2022年12月末現在)

組織図

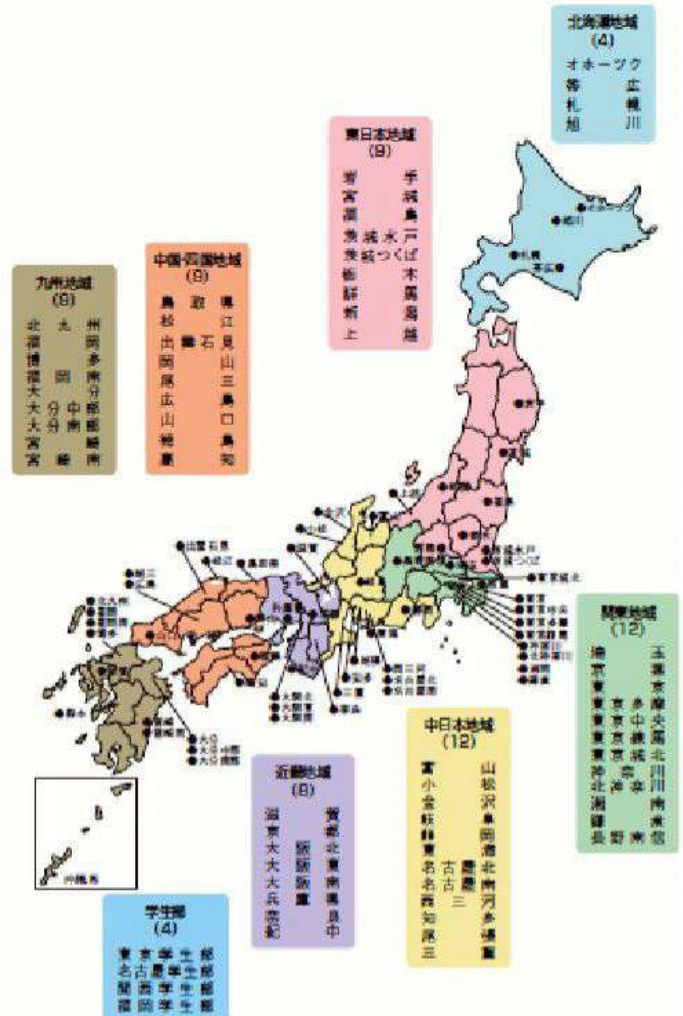


事務局を除く全てがボランティアで構成されています

公益財団法人 AFS 日本協会支部

2023年7月現在

- 支部数 67支部 (4学生部含む)
- ボランティア数 約1,600名



(UNESCOオフィシャルパートナー)
公益財団法人AFS日本協会
<https://www.afs.or.jp/>
 E-mail info@afs.or.jp

【公益財団法人 AFS日本協会について③】

■公益財団法人AFS日本協会の受入・派遣プログラム

AFSの加盟国は約60か国、交流国は100か国以上に及び、理念に共感し活動を共にするボランティアとともに、多様な文化・価値観の人々と

共に生きることを学ぶ]活動を継続しています。

日本から
世界へ

>> to the World

派遣プログラム

1954年に8人の高校生が最初のAFS生としてアメリカ合衆国に派遣されて以来、AFSという名は高校生交換留学の代名詞と言われるまでになりました。

中心となる「年間派遣プログラム」は、日本の高校生が1学年間、派遣された国でホストファミリーと生活しながら、その地域の高等学校に通学します。現地での生活体験を通じ、文化・社会・人間への理解を深めることを目的としています。1989年以降は、各国パートナーと連携し毎年300人以上の生徒を送り出してきました。1982年からは異文化体験や国際交流のより広いニーズに応えるため、年間派遣プログラムで培った実績をもとに、語学研修や短期の高校通学、文化研修を軸とした「短期派遣プログラム」も実施しています。

Learn to Live Together



主なプログラム

- 年間派遣プログラム(冬:1月~2月より約10ヶ月) (夏:6月~10月より約10ヶ月)
 - 短期派遣プログラム(春、夏、秋)
- ※年度によって実施するプログラムは異なります

これまでの主な受託補助・委託事業

- 文部科学省:日本の高校生のアジアへの短期派遣事業、新世紀国際交流プロジェクト・高校生交流の推進
- 外務省:日・ASEAN連携基金事業・ASEAN I
- 米国大使館:TOMODACHIサマー英語研修プログラム
- AIEJ/ユネスコ青年交流信託基金(ユネスコ基金)プログラム

これまでの派遣国・地域

【アジア】中国、香港、インドネシア、インド、韓国、マレーシア、モンゴル、フィリピン、スリランカ、タイ **【オセアニア】** オーストラリア、ニュージーランド **【中南米】** アルゼンチン、ボリビア、ブラジル、チリ、コスタリカ、エクアドル、ホンジュラス、メキシコ、パナマ、パラグアイ、ペルー、ウルグアイ、ベネズエラ **【北米】** カナダ、アメリカ **【ヨーロッパ】** オーストリア、ベルギー(オランダ語圏)、ベルギー(フランス語圏)、チェコ、デンマーク、スペイン、フィンランド、フランス、イギリス、イギリス(ウェールズ)、アイルランド、ドイツ、ギリシャ、ハンガリー、アイスランド、イタリア、ラトビア、オランダ、ノルウェー、ポーランド、ポルトガル、ロシア、スイス、スウェーデン **【アフリカ】** エジプト

主な奨学金

三菱商事高校生海外留学奨学金、JBS海外留学奨学金、オデッセイIT奨学金、東海東京財団留学奨学金、田口福寿会AFS留学生奨学金、AFSボランティア奨学金、AFSどさんこ奨学金、AFS山形ふるさと奨学金、新潟市国際交流協会高校生留学奨学金、赤羽恒雄博士記念ながの奨学金、AFSひろしま奨学金、ソニーグループ国際教育基金、イーヨーカドースカラシップ

1954年—2022年 参加人数と交流国(累計)

	年間プログラム		セメスター/タイムスタープログラム		短期プログラム		集計	
	(受入)	(派遣)	(受入)	(派遣)	(受入)	(派遣)	(受入)	(派遣)
アジア	2,045	869	825	7	3,782	936	6,552	1,812
オセアニア	1,860	1,007	101	2	2,540	2,874	4,510	4,873
中南米	821	1,822	21	0	103	61	945	1,683
北米	1,510	9,274	327	0	3,050	1,850	4,887	10,124
欧州	2,304	3,458	100	4	728	171	3,132	3,833
独立国家共同体	0	0	0	0	0	20	0	20
アフリカ	10	0	0	1	4	0	14	1
合計	8,550	16,220	1,374	14	10,216	5,912	20,140	22,146
総合計	24,770		1,388		16,128		42,296	



【公益財団法人 AFS日本協会について④】

世界から 日本へ

>> to Japan



受入プログラム

AFS日本協会の受入活動は、1957年の夏に9人のアメリカ人高校生を日本の家庭に受け入れたことから始まりました。1983年から年間受入プログラムを開始、その後も様々な特色あるプログラムが生まれました。現在、最も規模が大きいのは「年間受入プログラム」です。1990年以降、継続して毎年200名以上を受け入れています。海外からの高校生に1学年間、日本でホームステイしながら高校に通学する機会を提供し、日本の文化・社会・人間への理解を深めることを目的としています。ホストファミリーは海外からの高校生を家族の一員として迎え、互いに、異なる文化や考え方を認め合い、共に語り、共に歩みながら相互理解に努めます。

主なプログラム

- 年間受入プログラム(春:3月下旬～翌年2月上旬) (秋:8月下旬～翌年7月中旬)
- セメスター受入プログラム(3月下旬～8月下旬) (8月下旬～翌年2月上旬)
- 短期通学プログラム(10月上旬～11月上旬)
- 日本語研修プログラム(6月下旬～7月下旬) (11月下旬～12月下旬)

※年度によって実施するプログラムは異なります

主な受託補助・委託事業

- 文部科学省:アジア高校生架け橋プロジェクト、異文化理解ステップアップ事業
- 外務省:JENESYSインド、JUNTOSII(中南米)(いずれも外務省対日理解促進プログラム)

これまでの受入国・地域

【アジア】バングラデッシュ、ブータン、ブルネイ、カンボジア、中国、香港、インドネシア、インド、韓国、ラオス、マレーシア、モルディブ、モンゴル、ミャンマー、ネパール、パキスタン、フィリピン、シンガポール、スリランカ、タイ、東ティモール、ベトナム 【オセアニア】オーストラリア、ニュージーランド 【中南米】アルゼンチン、ボリビア、ブラジル、チリ、コロンビア、コスタリカ、ドミニカ共和国、エクアドル、グアテマラ、ホンジュラス、ジャマイカ、メキシコ、パナマ、パラグアイ、ペルー、ベネズエラ 【北米】カナダ、アメリカ 【ヨーロッパ】アルメニア、アゼルバイジャン、オーストリア、ベルギー(オランダ語圏)、ベルギー(フランス語圏)、ペラルーシ、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ブルガリア、クロアチア、チェコ、デンマーク、スペイン、エストニア、フィンランド、フランス、イギリス、ドイツ、ギリシャ、ハンガリー、アイスランド、イタリア、カザフスタン、キルギス、ラトビア、リトアニア、ルクセンブルグ、オランダ、ノルウェー、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、ロシア、スロベニア、セルビア、スイス、スロバキア、スウェーデン、タジキスタン、トルコ、トルクメニスタン、ウクライナ、ウズベキスタン 【アフリカ】南アフリカ、ガーナ

主な奨学金

NEXT50奨学金、YOSHI基金、ガーナ奨学金、どさんこ奨学金、明治ブルガリア奨学金

デジタル教育事業

国際間の移動が縮小していた間も、AFSは異文化交流と学習の機会を広げるため、画面上で海の向こうの仲間とつながり、共に学べるプログラムを提供してきました。70年にわたり国内外で異文化学習事業を続けるAFSの知見を凝縮し、多様な人々と協力してよりよい社会のために行動する能力「グローバル・コンピテンシー」を身につけられるよう設計されています。

主なプログラム

- Global You Adventurer(中高生、14～17歳)
- Global Up(Global Competence Certificate シリーズ)(中高生～社会人)



【お問い合わせ先】

公益財団法人 AFS日本協会

プログラム本部

住 所：〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-18-16

虎ノ門菅井ビル6F

電 話：03-6206-1941

E-mail：gr@afs.or.jp

担 当：宮下(みやした)・森本(もりもと)